

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 4 月 23 日 (2009.4.23)

【公開番号】特開 2007-269890 (P2007-269890A)

【公開日】平成 19 年 10 月 18 日 (2007.10.18)

【年通号数】公開・登録公報 2007-040

【出願番号】特願 2006-94865 (P2006-94865)

【国際特許分類】

C 0 8 L 101/00 (2006.01)

B 2 9 C 65/16 (2006.01)

C 0 8 K 9/02 (2006.01)

C 0 8 L 77/00 (2006.01)

C 0 8 L 67/02 (2006.01)

C 0 8 L 81/02 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 101/00

B 2 9 C 65/16

C 0 8 K 9/02

C 0 8 L 77/00

C 0 8 L 67/02

C 0 8 L 81/02

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 3 月 6 日 (2009.3.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) (A 1) ポリアミド樹脂、(A 2) ポリブチレンテレフタレート樹脂および (A 3) ポリフェニレンスルフィド樹脂から選ばれる少なくとも 1 種の熱可塑性樹脂 100 重量部に対し、(B) 金属酸化物層を有する光輝顔料を 0.5～2 重量部を配合してなるレーザ溶着用樹脂組成物。

【請求項 2】

(B) 金属酸化物層を有する光輝顔料が、チタニア層を有する光輝顔料である請求項 1 記載のレーザ溶着用樹脂組成物。

【請求項 3】

(B) 金属酸化物層を有する光輝顔料が、無機酸化物または無機水酸化物の基材上に金属酸化物層を有するものである請求項 1 または 2 記載のレーザ溶着用樹脂組成物。

【請求項 4】

(C) 無機充填材（ただし、金属酸化物層を有する光輝顔料を除く）および有機充填材から選択される少なくとも 1 種を、(A) 熱可塑性樹脂 100 重量部に対し 1～200 重量部配合してなる請求項 1～3 のいずれか記載のレーザ溶着用樹脂組成物。

【請求項 5】

厚み 2.0 mm の成形品にした時に、波長 800～1100 nm のレーザ光の透過率が 15% 以上である請求項 1～4 のいずれか記載のレーザ溶着用樹脂組成物。

【請求項 6】

請求項 1 ～ 5 のいずれか記載のレーザ溶着用樹脂組成物を成形してなる成形品。

【請求項 7】

請求項 6 記載の成形品をレーザ溶着してなる溶着成形品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

すなわち本発明は、

(1) (A) (A1) ポリアミド樹脂、(A2) ポリブチレンテレフタレート樹脂および(A3) ポリフェニレンスルフィド樹脂から選ばれる少なくとも1種の熱可塑性樹脂100重量部に対し、(B) 金属酸化物層を有する光輝顔料を0.5～2重量部を配合してなるレーザ溶着用樹脂組成物、

(2) (B) 金属酸化物層を有する光輝顔料が、チタニア層を有する光輝顔料である(1)記載のレーザ溶着用樹脂組成物、

(3) (B) 金属酸化物層を有する光輝顔料が、無機酸化物または無機水酸化物の基材上に金属酸化物層を有するものである(1)または(2)記載のレーザ溶着用樹脂組成物、

(4) (C) 無機充填材(ただし、金属酸化物層を有する光輝顔料を除く)および有機充填材から選択される少なくとも1種を、(A) 熱可塑性樹脂100重量部に対し1～200重量部配合してなる(1)～(3)のいずれか記載のレーザ溶着用樹脂組成物、

(5) 厚み2.0mmの成形品にした時に、波長800～1100nmのレーザ光の透過率が15%以上である(1)～(4)のいずれか記載のレーザ溶着用樹脂組成物、

(6) (1)～(5)のいずれか記載のレーザ溶着用樹脂組成物を成形してなる成形品、

(7) (6) 記載の成形品をレーザ溶着してなる溶着成形品、である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

本発明で用いる(A)熱可塑性樹脂は、(A1) ポリアミド樹脂、(A2) ポリブチレンテレフタレート樹脂および(A3) ポリフェニレンスルフィド樹脂から選ばれる少なくとも1種である。これらの樹脂は耐薬品性、耐熱性、機械的強度、電気絶縁性が高位にバランスがとれており、かつ、加工性にも良好である。これら(A1) ポリアミド樹脂、(A2) ポリブチレンテレフタレート樹脂、(A3) ポリフェニレンスルフィド樹脂は単独であっても良いし、ポリアミドとポリアミド共重合体、ポリブチレンテレフタレートとポリブチレンテレフタレート共重合体、ポリフェニレンスルフィドとポリフェニレンスルフィド共重合体との併用であっても良い。